

労働者 戦時下の協調會

第一節 協調主義の戦時的偏向

第一項 戦時體制化の進展と協調主義の偏向
所謂非常時局の進展に對應して時局的色彩を濃化して行つた吉田常務理事時代を経て、勿論非常時局を意識しつつ、モエルによつて惹き起された勞資の對立摩擦に直面して、協調主義の傳統を維持するため産業福利運動への進出を企圖した河原田常務理事の後を受けて、昭和十二年二月八日本會常務理事の職に就いた人は當時本會總務部長たりし河原辰次部長であつた。同氏は河原田前常務理事の推薦によりて就任すると同時に大要次の如き就任の辞を發表して、今後協調會の採るべき進路を明確に表

現したるであつた。

「本會としましては、創立の當初より夙に協調精神の普及徹底を圖る事を以て根本使命の一として参つたのであります。今日益々其の必要を痛感致しますと共に、進んでは我國産業道の確立と勤勞精神の宣揚と國体に即したる穩健中正なる社會政策の實施を期することとを以て、最も緊切妥當の時務なりと信する次第であります。

而して勤勞精神を作興する爲には、先づ從來の勞働に對する個人主義的觀念を是正し、勞働は單に自己の生活維持及び其の向上の爲にのみならず、国家社會の爲に奉仕するとして、自己の職業を通じて、國家社會の爲に奉仕する